

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ケアコミュニティ(株)	代表者	松野修典	法人・事業所の特徴	亀岡清泉荘は開設より10年目がたち、地域の方々との交流が深まっています。利用者さまは曾我部町にお住まいの方が多く、昔からの顔なじみ同士で昔話に花が咲き楽しそうにお過ごしでいらっしゃいます。スタッフは親しみの中にも丁寧な態度や言葉使いで接するように心がけています。コロナ禍で地域との交流の機会は少なくなりましたが、清泉荘だよりなどを発行し、ホームページでも日々の活動を掲載するなど情報発信に努めています。
事業所名	亀岡清泉荘	管理者	松野修典		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	人	1人	1人	人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			すべての利用者さま、ご家族というより、必要とされる利用者さま、ご家族にできているか、という視点での自己評価を行うことが妥当な場合もある。	一人暮らしの方など、利用者さま個々の状況に合わせてできているかどうかの視点で自己評価をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	ご家族面会室に陰圧装置を設置し感染予防の徹底を図る	令和4年4月に設置、ご家族面会に利用できた。	コロナ禍でホーム見学の機会がなく、写真等の説明で理解できた面もあるが、音やにおい、居心地などの環境の評価は難しい。	コロナ禍が落ち着いた段階で、運営推進会議前後にホーム見学の機会をつくる。 ホームの庭園、畑の整備を行い、利用者さまが栽培や収穫に参加できる機会をつくる。
C. 事業所と地域のかかわり	「地域資源」「小規模多機能の柔軟性」に関して施設内研修を行う。	地域資源については職場会議で都度紹介し情報共有を行った。	自治会の行事には積極的に参加してもらいたい。 清泉荘の行事などに地域の方々が参加したり、関わることで、小規模多機能の良さをアピールすることができると思う。実際の利用者さまを見たり、活動を知ること、将来や家族のことを考える機会になると思う。 老人会などの会合で、清泉荘の説明や制度の説明などできればいいと思う	曾我部町、南条区等の老人クラブに情報発信を行い、交流の機会をつくる。

<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>担当利用者さまの目標・ゴールに関してしっかりと把握する。 介護職員のモニタリングの参加を通して、日々の変化を素早く把握し、支援に生かす。 地域密着型事業所・小規模多機能の特性を再度理解し、「地域で暮らす」事の研修会を開催し学ぶ。</p>	<p>利用者さまの目標・ゴールについてはアンケートを行い、全員で情報共有を進めた。介護職員のモニタリングへの参加も必要に応じて実施した。 「地域で暮らす」研修会は開催できなかった。</p>	<p>別の地域でふれあいサロンなど地域で交流の機会をつくり活発に情報発信しているところがある。地域の方にとっては身近に感じ、介護や福祉の問題について色々な情報を得ることができ、理解がすすむと思っている。 特に、介護を受ける、施設に入るといのはハードルが高く思われ、なかなか進んで情報を得ることもできない。そういった点で、小規模多機能の紹介や各種制度の案内、情報発信ができれば良いと思うことがある。</p>	<p>地域ケア推進会議をはじめとした、地域の会議への参加を積極的に行い、且つ参加した内容を職員全体で共有できるようにする。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>			<p>防災対策、BCPの作成などマニュアルを作成していただき、活用することで利用者さまがどんな時でも利用できる体制を作ってもらいたい。</p>	<p>BCP策定研修の受講、BCP策定、従業員への周知を令和5年度中に実施する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>消防団の分団長の方への挨拶、少なくとも清泉荘の防災の取組みや協力し合えることについて意見交換（書面含む）を行う。</p>	<p>自治会、消防団にお伺いし会長、分団長とお会いした。11月にホームの視察と防災に関する助言を頂く予定だったが、コロナ感染者発生のため延期となった。</p>	<p>自治会の事業には積極的に参加してもらいたい。防災訓練には消防団を連携の機会を設ける。迅速な避難ができるよう訓練が出来るように連携していきたい。</p>	<p>6月以降に自治会、消防団との連携の機会をつくり、ホームの防災、避難についての意見交換、助言を頂き防災体制を強化する。</p>